

都市再生整備計画 事後評価シート
中心市街地及び熊野古道沿線地区

令和 6年 3月

和歌山県湯浅町

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式 1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式 1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況 (完成状況)
- 添付様式 2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式 2-② その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標) により計測される効果発現の計測
- 添付様式 2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式 3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式 3-② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式 3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式 4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式 4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式 4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式 5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式 5-② まちの課題の変化
- 添付様式 5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式 5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式 5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式 6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式 6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称 (当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式 7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式 8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		指標「湯浅町の観光客数(人)」の数値目標について、90万人/年を目指す。	指標「湯浅町の観光客数(人)」の数値目標について、54万5千人/年を目指す。	湯浅町まち・ひと・しごと総合戦略の見直しに伴い、下方修正を実施した。令和2年度時点の観光客数は、206,961人/年であったが、コロナ渦前の令和元年度の観光客数が540,651人/年であったことから、少し上回る545,000人/年とした。
D. その他 ()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路							影響なし		
公園	湯浅駅前公園			212	1,577㎡	駅前周辺の賑わい創出のため、追加。	影響なし	●	
地域生活基盤施設	駅前広場	123	舗装:3550㎡ 歩廊:380㎡	142	1,808㎡	事業見直しによる事業内容の変更及び、事業費が増額した。	影響なし	●	
地域生活基盤施設	駅前駐車場	87	2060㎡	104	1,910㎡	事業見直しによる事業内容の変更及び、事業費が増額した。	影響なし	●	
地域生活基盤施設	駅自由通路	18	45㎡			JRとの協議により事業取りやめとなったため、削除	影響なし		
地域生活基盤施設	自転車駐車場			81	900㎡	用地買収が進み、駐輪場の整備が可能となったため、追加。	影響なし	●	
高質空間形成施設	町道湯浅71号線	60	900㎡			地元調整等の不調により実施が困難と判断したため、基幹事業より削除	影響なし		
高質空間形成施設	町道湯浅83号線	65	1,000㎡			地元調整等の不調により実施が困難と判断したため、基幹事業より削除	影響なし		
高質空間形成施設	町道湯浅87号線	42	400㎡			地元調整等の不調により実施が困難と判断したため、基幹事業より削除	影響なし		
高質空間形成施設	町道湯浅99号線	63	1,000㎡			地元調整等の不調により実施が困難と判断したため、基幹事業より削除	影響なし		
高次都市施設	地域交流センター	429	975㎡	275	454㎡	事業見直しによる事業内容の変更及び、事業費が減額した。	影響なし	●	
高次都市施設	観光交流センター			69	115㎡	既存建造物活用事業で整備予定であった、観光交流センターを複合施設内に整備することとなったため、高次都市施設として追加	影響なし	●	
誘導施設	町立図書館			800	1,320㎡	立地適正化計画に基づく事業(都市再構築戦略事業)への移行に伴い、中心拠点誘導施設へ追加。	影響なし	●	
既存建造物活用事業	観光交流センター	75	340㎡			既存建造物活用事業で整備予定であった、観光交流センターを複合施設内に整備することとなったため、高次都市施設へ移行	影響なし		

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	町立図書館整備事業	485	1,100㎡			立地適正化計画に基づく事業(都市再構築戦略事業)への移行に伴い、中心拠点誘導施設へ移行のため削除。	影響なし		
	駅前広場休憩所等整備事業	68	330㎡			事業の見直しにより削除	影響なし		
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考) ※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値 (エ)		目標達成度※2	1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度	基準年度	基準年度	目標年度				あり	なし
指標1	JR湯浅駅乗降客数	人/日	JR湯浅の乗降客数を計測し、令和3年度の日あたりの平均乗降客数を算出する。(計測時期:令和3年4月～令和4年3月)		2,324	H27	2,600	R3	モニタリング		モニタリング	●
									事後評価	確定見込み ● 1,626	事後評価 ×	
指標2	主要集客施設利用者数	人/年	図書館入口にあるセンサーにて、計測。出入りで1人カウント。(計測時期:令和3年4月～令和4年3月)		26,363	H27	50,000	R3	モニタリング		モニタリング	○
									事後評価	確定見込み ● 117,539	事後評価 ○	
指標3	観光客数	人/年	各観光施設及び商業施設の目視等による計測と町内の祭りの売上等から算出した人数の合計とする。(計測時期:令和3年1月～令和3年12月)		508,049	H27	545,000	R3	モニタリング		モニタリング	●
									事後評価	確定見込み ● 193,852	事後評価 ×	
指標4	子育て世代(20代～40代)人口	人	令和4年3月末時点の子育て世代(20代～40代)の人口を抽出する。		3,989	H27	4,500	R3	モニタリング		モニタリング	●
									事後評価	確定見込み ● 3,240	事後評価 ×	
指標5									モニタリング		モニタリング	
									事後評価	確定見込み	事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	事業としては、駅周辺の高質化につながるものが基本であり、複合施設の利用者数が大幅に向上していることから、効果はあったと考える。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響による流動人口の減少、及び湯浅駅の運行ダイヤの本数減少による外的要因が大きく影響し、目標値を下回る結果となった。	
指標2	従来の図書館とは異なり、カフェスペースを備えた新しい図書館が利用者層の拡大に貢献した。蔵書数は3万8千冊から5万3千冊に増加し、子供向けの絵本スペース、学習スペース、郷土資料室が整備された。さらに、十分なスタッフを配置し、開館時間を9時から21時にしたことで、家族連れや学生の利用快適性が向上した。1階のピロティは子供の送迎に使われ、利便性が大幅に向上。21時までの開館と職員の常駐により、防犯性が高まり、利用者は安心して施設を利用できるようになった。観光交流センターと図書館内の郷土資料室との連携が、地元住民だけでなく観光客にも魅力的な場所として機能し、これらの要因が組み合わせられ、目標達成に寄与したと考えられる。	
指標3	観光客数は複合施設新型コロナウイルス感染症の影響による流動人口の減少が大きく影響していると考えられるが、湯浅駅の運行ダイヤの本数が減少したことも要因であると考えられ、目標値を下回る結果となった。	
指標4	駅周辺に図書館及び公園を整備することにより、住環境は向上したと思われるが、子育て世代の人口(20代～40代)に影響はなく、ほぼ事業前と同じ推移で減少しており、現時点では事業効果の発言は確認できない。また、人口の転出入についても、少なからず新型コロナウイルスの影響はあったと考えられる。	

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考) ※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値 (ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課 題等)
			基準 年度		基準 年度				
その他の 数値指標 1							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標 2							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標 3							モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

様式 2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	和歌山県		市町村名	湯浅町		地区名	中心市街地及び熊野古道沿線地区		面積	80.8ha	
交付期間	平成29年度～令和3年度		事後評価実施時期	令和5年度		交付対象事業費	1605	国費率	0.484		
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【地域生活基盤施設】駅前広場、駅前駐車場、自転車駐車場【高次都市施設】地域交流センター								
		提案事業									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	<ul style="list-style-type: none"> ・【地域生活基盤施設】駅自由通路 ・【既存建造物活用事業】観光交流センター(旧湯浅駅整備) ・【高質空間形成施設】カラ―舗装、側溝整備 湯浅71,83,87,99号線 	<ul style="list-style-type: none"> ・JRとの協議により事業取りやめとなったため、削除。 ・複合施設内へ同機能の施設を整備することとなったため、削除。 ・地元調整等の不調により実施が困難と判断したため、基幹事業より削除。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標に影響なし。 ・指標に影響なし。 ・指標に影響なし。 						
		提案事業	<ul style="list-style-type: none"> ・町立図書館整備事業 ・駅前広場休憩所等 	<ul style="list-style-type: none"> ・立地適正化計画に基づく事業(都市再構築戦略事業)への移行に伴い、中心拠点誘導施設へ移行。 ・事業の見直しにより削除。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標に影響なし。 ・指標に影響なし。 						
		新たに追加した事業	<ul style="list-style-type: none"> ・【公園】湯浅駅前公園(仮) ・【地域生活基盤施設】自転車駐車場 ・【高次都市施設】観光交流センター ・【誘導施設 教育文化施設】町立図書館 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前周辺の賑わい創出のため、追加。 ・用地買収が進み、駐輪場の整備が可能となったため追加。 ・既存建造物活用事業で整備予定であった、観光交流センターを別途整備するため、高次都市施設として追加。 ・立地適正化計画に基づく事業(都市再構築戦略事業)への移行に伴い、中心拠点誘導施設として追加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標に影響なし。 ・指標に影響なし。 ・指標に影響なし。 ・指標に影響なし。 						
	交付期間の変更	当初	平成29年度～令和3年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
		変更	-								

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	指標	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成見込み							
							あり	なし						
	指標1	JR湯浅駅乗降客数	人/日	2,324	H27	2,600	R3		1,626	×	あり なし	○	事業としては、駅周辺の高質化につながるものが基本であり、複合施設の利用者数が大幅に向上していることから、効果はあったと考える。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響による流動人口の減少、及び湯浅駅の運行ダイヤの本数減少による外的要因が大きく影響し、目標値を下回る結果となった。	-
	指標2	主要集客施設利用者数	人/年	26,363	H27	50,000	R3		117,539	○	あり なし	○	従来の図書館とは異なり、カフェスペースを備えた新しい図書館が利用者層の拡大に貢献した。蔵書数は3万8千冊から5万3千冊に増加し、子供向けの絵本スペース、学習スペース、郷土資料室が整備された。さらに、十分なスタッフを配置し、開館時間を9時から21時にしたことで、家族連れや学生の利用快適性が向上した。 1階のピロティは子供の送迎に使われ、利便性が大幅に向上。21時までの開館と職員の常駐により、防犯性が高まり、利用者は安心して施設を利用できるようになった。観光交流センターと図書館内の郷土資料室との連携が、地元住民だけでなく観光客にも魅力的な場所として機能し、これらの要因が組み合わせられ、目標達成に寄与したと考えられる。	-
	指標3	観光客数	人/年	508,049	H27	545,000	R3		193,852	×	あり なし	○	観光客数は複合施設新型コロナウイルス感染症の影響による流動人口の減少が大きく影響していると考えられるが、湯浅駅の運行ダイヤの本数が減少したことも要因であると考えられ、目標値を下回る結果となった。	-
	指標4	子育て世代(20代~40代)人口	人	3,989	H27	4,500	R3		3,240	×	あり なし	○	駅周辺に図書館及び公園を整備することにより、住環境は向上したと思われるが、子育て世代の人口(20代~40代)に影響はなく、ほぼ事業前と同じ推移で減少しており、現時点では事業効果の発言は確認できない。また、人口の転出入についても、少なからず新型コロナウイルスの影響はあったと考えられる。	-


3) その他の数値指標 (当初設定した数 値 目標以外の指標) による効果発現状況	指 標		従前値	目標値	数 値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	単 位		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	その他の 数値指標1										
	その他の 数値指標2										
	その他の 数値指標3										
4) 定性的な効果 発現状況											
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	実施なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた							
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	官民連携による 取組	実施なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた							
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	持続的なまちづくり 体制の構築	実施なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた							
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要


中心市街地及び熊野古道沿線地区(和歌山県湯浅町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
「湯浅」の歴史的資源を活かし、都市機能と生活環境向上による魅力的で快適なまちづくり 目標1 歴史的・観光資源を活かした魅力ある町並みの形成 目標2 充実した都市機能を備えた魅力ある中心市街地の賑わいの再生 目標3 安心安全で快適な生活環境の創造による快適なまちの形成	JR湯浅駅乗降客数	単位:人/日	2,324	H27	2,600	R3	1,626	R3
	主要集客施設利用者数	単位:人/年	26,363	H27	50,000	R3	117,539	R3
	観光客数	単位:人/年	508,049	H27	545,000	R3	193,852	R3
	子育て世代(20代~40代)人口	単位:人	3,989	H27	4,500	R3	3,240	R3
		単位:		H		R		R


駅前駐車




町立図書館(複合施設)



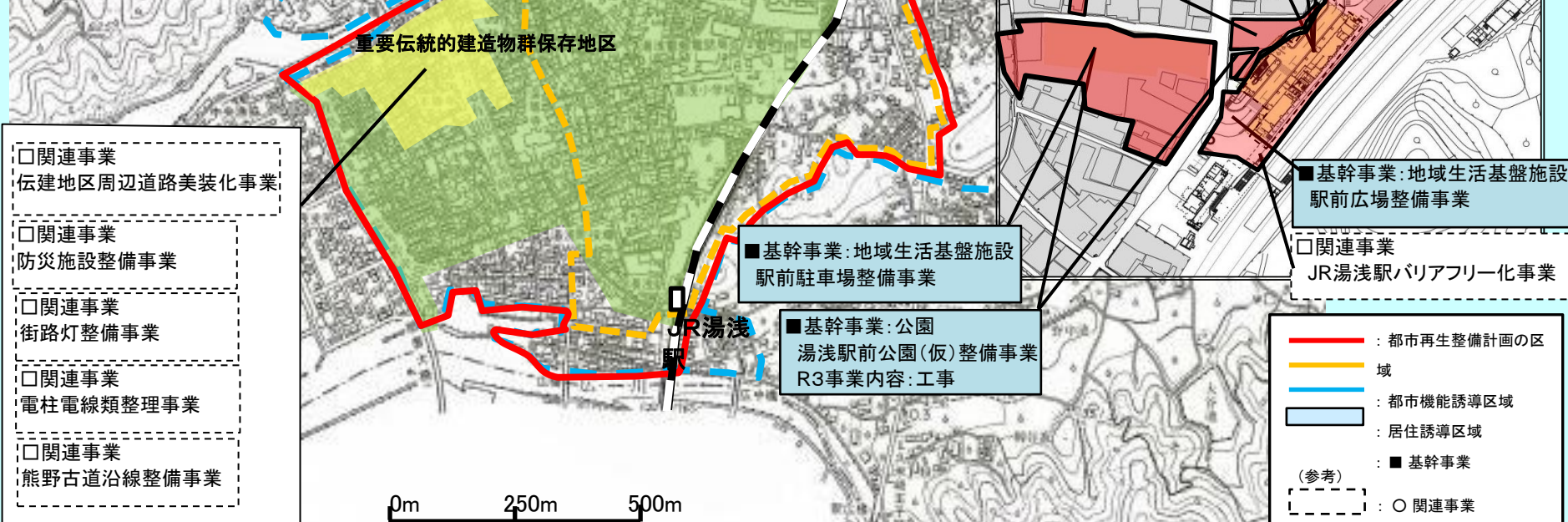
駅前公園(おちやと公)



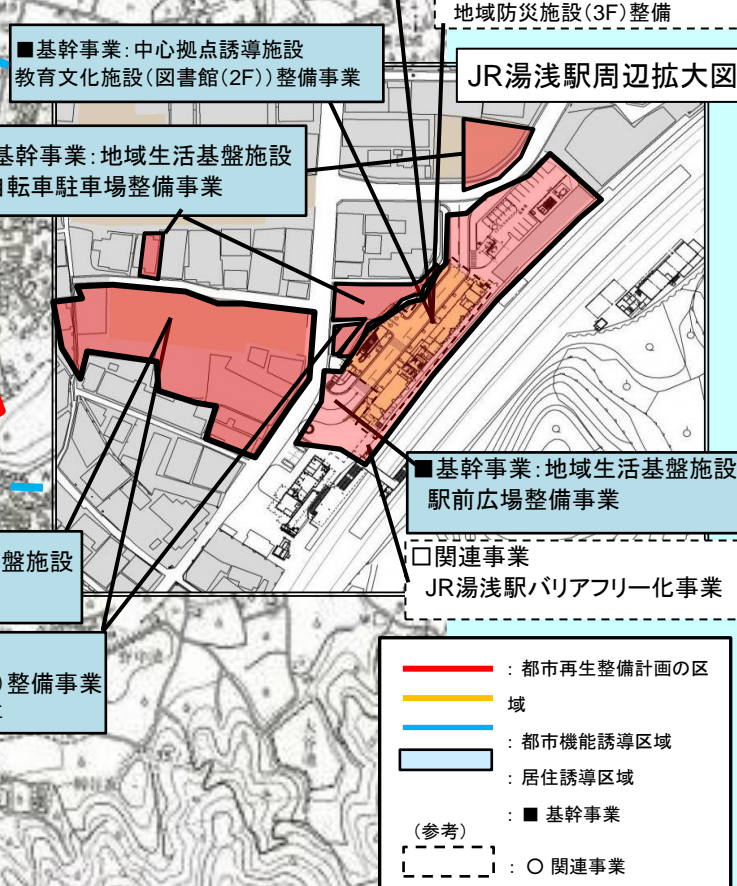
周辺図



重要伝統的建造物群保存地区




JR湯浅駅周辺拡大図




0m 250m 500m


複合施設外観



観光交流センター(複合施設)



地域交流センター(複合施設内)



まちの課題の変化

①歴史的な魅力と特色ある観光資源が調和した活力あるまちの創造
 駅周辺の整備により、湯浅重要伝統的建造物群保存地区内だけでなく、湯浅駅から湯浅重要伝統的建造物群保存地区までを散策できるルートが形成され、回遊性の向上に寄与していると考え。また、第1次産業における担い手の人材育成に取り組む拠点としては、複合施設内にある地域交流センターや、貸し会議室の機能としても活用している地域防災施設を整備したことにより、改善されたと考える。

②中心市街地の都市機能の衰退
 町立図書館、観光交流センター、地域交流センター等を統合した複合施設の整備により、地域住民の交流の場となった。また、施設の来館者数は、R3目標値である50,000人を大きく超える117,539人となり、中心市街地の賑わいの場として貢献していると考え。

③人口減少と少子高齢化の急速な進展
 町立図書館及び駅前公園の整備により、子育て世代のコミュニティ形成の場が創出され、複合施設の利用者数が目標値を大きく上回っていることから、住民の生活環境向上に貢献していると考えられる。

④地震・津波・洪水などの自然災害の脅威
 複合施設は想定最大規模の津波にも耐えうる施設となっており、津波及び、浸水や冠水被害の一時的な避難場所として、被害の軽減が図られたと考える。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 湯浅町へ定住を促進するため補助金等のソフト事業の充実化。
- 駅周辺の狭隘区間の改善及び道路標示の整理等のインフラ整備の実施。
- 複合施設等の駅周辺を活用した多種多様なイベントの実施。また、町の周遊性向上のため、レンタサイクルの活用を促進する事業の実施。
- 地場産業の強化及び起業支援のための補助金を整備。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価に係る庁内会議	政策企画課、総務課、産業建設課、教育委員会、ふるさと振興課	令和5年12月27日(水)	産業建設課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標4	
指標名		主要集客施設利用者数							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	公園:湯浅駅前公園(仮)	○	従来の図書館とは異なり、カフェスペースを備えた新しい図書館が利用者層の拡大に貢献した。蔵書数は3万8千冊から5万3千冊に増加し、子供向けの絵本スペース、学習スペース、郷土資料室が整備された。さらに、十分なスタッフを配置し、開館時間を9時から21時にしたこと、家族連れや学生の利用快適性が向上した。1階のピロティは子供の送迎に使われ、利便性が大幅に向上。21時までの開館と職員の常駐により、防犯性が高まり、利用者は安心して施設を利用できるようになった。観光交流センターと図書館内の郷土資料室との連携が、地元住民だけでなく観光客にも魅力的な場所として機能し、これらの要因が組み合わせ、目標達成に寄与したと考えられる。						
	地域生活基盤施設:駅前広場	◎							
	地域生活基盤施設:駅前駐車場	◎							
	地域生活基盤施設:自転車駐車場	◎							
	誘導施設教育文化施設:町立図書館	◎							
	高次都市施設:観光交流センター	◎							
	高次都市施設:地域交流センター	◎							
提案事業									
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	駅前の周辺整備を進め、施設の利用促進を図り、また、複合施設内にある地域交流センターを活用し地域住民を対象としたイベント等を実施する。			
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3			指標4		
指標名		JR湯浅駅乗降客数			観光客数			子育て世代(20代~40代)人口					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	公園:湯浅駅前公園(仮)	△	事業としては、駅周辺の高質化につながるものが基本であり、複合施設の利用者数が大幅に向上していることから、効果はあったと考える。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響による流動人口の減少、及び湯浅駅の運行ダイヤの本数減少による外的要因が大きく影響し、目標値を下回る結果となった。	III	-	観光客数は新型コロナウイルス感染症の影響による流動人口の減少が大きく影響していると考え、湯浅駅の運行ダイヤの本数が減少したことも要因であると考えられ、目標値を下回る結果となった。	III	△	駅周辺に図書館及び公園を整備することにより、住環境は向上したと思われるが、子育て世代の人口(20代~40代)に影響はなく、ほぼ事業前と同じ推移で減少しており、現時点では事業効果の発言は確認できない。また、人口の転出入についても、少なからず新型コロナウイルスの影響はあったと考えられる。	I			
	地域生活基盤施設:駅前広場	△											
	地域生活基盤施設:駅前駐車場	△											
	地域生活基盤施設:自転車駐車場	△											
	誘導施設教育文化施設:町立図書館	△											
	高次都市施設:観光交流センター	△											
	高次都市施設:地域交流センター	△											
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類II：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類III：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類IV：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>新型コロナウイルス感染症の影響が大きいため、短期的な改善は見込めないが、今後も駅前周辺の整備や熊野古道の美装化事業など、来訪者の増加に資する事業を継続して実施する。加えて、JRへ運行ダイヤ本数の増加を要望し、JRや近隣市町村との連携した取り組み、観光協会とも協力してSNSを活用した観光情報の発信や、例年実施している観光イベントを継続して実施していく。また、熊野古道を活用したウォーキングイベントやサイクリングイベント等の新たな事業を検討する。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響が大きいため、短期的な改善は見込めないが、今後も駅前周辺の整備や熊野古道の美装化事業など、来訪者の増加に資する事業を継続して実施する。加えて、JRへ運行ダイヤ本数の増加を要望し、JRや近隣市町村との連携した取り組み、観光協会とも協力してSNSを活用した観光情報の発信や、例年実施している観光イベントを継続して実施していく。また、熊野古道を活用したウォーキングイベントやサイクリングイベント等の新たな事業を検討する。</p>	<p>良好な居住環境の維持・創出に向けて、整備した施設の利用促進、適切な維持管理を行う。また、補助金などのソフト事業の充実化を図る。</p>
------------------	---	---	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価に係る庁内会議	政策企画課、総務課、産業建設課、教育委員会、ふるさと振興課	令和5年12月27日(水)	産業建設課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
①歴史的な魅力と特色ある観光資源が調和した活力あるまちの創造 ・歴史的及び観光資源を有効活用した観光振興によるにぎわい創出に向けた基盤整備が必要となっている。(歩行空間整備、駐車場整備等) ・地場産業の6次産業化や新たな特産品の開発、第1次産業における担い手等人材育成に取り組む拠点整備が必要とされている。	駅周辺の整備により、湯浅重要伝統的建造物群保存地区内だけでなく、湯浅駅から湯浅重要伝統的建造物群保存地区までを散策できるルートが形成され、回遊性の向上に寄与していると考えます。 また、第1次産業における担い手の人材育成に取り組む拠点としては、複合施設内にある地域交流センターや、貸し会議室の機能としても活用している地域防災施設を整備したことにより、改善されたと考えます。	拠点整備は完了したと考えるが、地場産業の6次産業化や新たな特産品の開発、第1次産業を初めとした地場産業の担い手の人材育成は引き続き進める必要がある。	駅前周辺の集中的な整備が交通の流れを促進し、その結果、道路の狭隘箇所やナビゲーションの複雑さが顕在化したことにより、インフラの更なる整備を図る必要がある。
②中心市街地の都市機能の衰退 ・中心市街地の賑わい低下への対策が求められている。 ・湯浅駅周辺に市街地を形成し、行政、商業機能が集積してきたが、郊外への商業施設出店や人口流出が続いており、都市の拠点地域を明確にし、民間活動を誘導する必要がある。 ・図書館も適正規模の65%程の規模のため閲覧等に支障賑わい創出のための核施設整備が必要となっている。	町立図書館、観光交流センター、地域交流センター等を統合した複合施設の整備により、地域住民の交流の場となった。また、施設の来館者数は、R3目標値である50,000人を大きく超える117,539人となっており、中心市街地の賑わいの場として貢献していると考えます。		
③人口減少と少子高齢化の急速な進展 ・出生数の減少に加え、進学・就職に伴う若者の流出により過去10年間で2,537人の人口が減少、平成52年には7,382人(H27国勢調査速報値12,205人)にまで減少する見込み。 ・高齢化が急速に進展し、平成52年には65才以上の人口割合が45.1%(H27:32%)に達する見込み。地場産業である農業・漁業の活力低下が懸念される。人口減少に真正面から立ち向かうため、子育て世代にもすみよいまちづくりを行う拠点の整備が必要とされている。	町立図書館及び駅前公園の整備により、子育て世代のコミュニティー形成の場が創出され、複合施設の利用者数が目標値を大きく上回っていることから、住民の生活環境向上に貢献していると考えられる。	居住環境は向上したと考えるが、人口の減少率及び高齢化率については、歯止めがきいていないため、引き続き別施策の検討が必要である。	
④地震・津波・洪水などの自然災害の脅威 ・南海トラフの巨大地震では2,200人の死者が想定されているため、被害軽減のための市街地整備と拠点施設整備の必要がある。 ・平成23年の台風12号による被害をはじめ、出水期、台風襲来時には浸水・冠水被害のおそれがあり、被害軽減を図る必要がある。	複合施設は想定最大規模の津波にも耐えうる施設となっており、津波及び、浸水や冠水被害の一時的な避難場所として、被害の軽減が図られたと考える。		

*これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
		駅周辺の更なる環境の向上	整備した複合施設及び周辺を更なる住民、訪問者等のコミュニティー形成の場とするために整備を進める。

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	湯浅町への定住の促進	湯浅町へ定住を促進するため補助金等のソフト事業の充実化。	・定住促進奨励金・給食費無償化・新婚世帯への補助 ・医療費助成・出産祝い金等・浄化槽整備設置事業補助金・各種補助金を掲載したPR冊子の作成事業等のソフト事業
	駅周辺のインフラ強化	駅周辺の狭隘区間の改善及び道路標示の整理。	・電線整理事業 ・道路標示の整備
	流動人口（JR湯浅駅乗降客数・観光客数）の増加	複合施設等の駅周辺を活用した多種多様なイベントの実施。また、町の周遊性向上のため、レンタサイクルの活用を促進する事業の実施。	・公民館事業 ・JR湯浅駅、広川町と連携したイベントの実施。 ・レンタサイクルを活用した事業の実施。
	特産品の開発及び人材育成	地場産業の強化及び起業支援のための補助金の整備及び担い手育成支援事業を整備。	・創業支援事業補助金 ・特産品等開発奨励金 ・漁業担い手育成支援事業等

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価（添付様式3）を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式4-②）を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式4-③）を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題（添付様式5-②）を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・数値目標を簡易に計測できるものや、町で毎年計測している数値としたため、達成度等目に見えて分かりよいものとなった。また、事後評価時に方法書等の作成の必要がなく、事務量の削減につながった。	目標は定量的かつ簡易に計測できるものとする ことで、管理しやすくなるため、計画作成当初から意識する必要がある。
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・数値指標については、改めて町や事業にあったものを検討する必要がある。	
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる 事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	湯浅町のHPIにて公表	1月31日(水)～2月14日(水)	公表と同期間	窓口、メール、FAX	産業建設課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	産業建設課の窓口で縦覧	1月31日(水)～2月14日(水)	公表と同期間		

住民の意見	特になし。				
-------	-------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	神吉紀世子 京都大学大学院工学研究科教授 谷中 敬治 湯浅町商工会事務局長	令和6年2月22日	産業建設課	-	都市計画審議会を活用
その他の委員	横矢 政明 湯浅町議会議長 松本 光成 湯浅町議会議員(総務文教まちづくり常任委員長) 三ツ橋 忠男 湯浅町議会議員(福祉産業建設人権常任委員長) 赤井 啓修 有田湯浅警察署長 星加 正積 有田振興局長 岡田 和男 町民				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続きにかかる審議	成果の評価	単に数字での成果、「駅の乗降客数や観光客数」に一喜一憂するのではなく、社会的な不安や災害など外部要因の影響を受けやすい指標よりも、より建設的で適切な指標を今後検討していくべき。特に、子育て世代の人口は日本全体の人口が減少している中で良い数値を出すことは難しいと思われる。今後、計画の指標を決める際には、実施した事業が地域にとって「かけがえのないもの」になるための評価基準を検討されたい。 ・事業を実施することで、浮き彫りになった課題があると思うので、今後KPIを設定するときに参考にされたい。 ・事業計画で想定していなかったところで好影響をもたらした。
	効果発現要因の整理	図書館が駅の近くに移転したことによる利便性や、地域コミュニティに与える肯定的な影響が「効果」として重要であり、施設の配置や機能が大切である。特に、家族を待つ間や電車を待つ間に、学生たちが安全で明るい場所で勉強できる環境を整備したことが、効果の要因として評価できる。
	事後評価原案の公表の妥当性	原案の公表期間としては妥当であるが、今後、事後評価を公表するにあたり、公表しつつ「そもそも、湯浅が少しずつ住みよくなっているかどうか、何を調べて発信したらよいでしょう？」の様な意見を日常のやりとりの中で聞いていくことが大事である。
	その他	湯浅の駅周辺開発のよい点は、「まちの形にあわせてつくっている」ことである。一般的な駅前開発に見られる車の回転半径などの設計基準等によって、歩行者の動線が遠回りになったり、不便になることがあるが、道路の環状ループを小さいサイズでつくって、歩行者の動線を長くせずにつけていることは、「特徴」で、指標にはないが、PRできることである。こうした人を中心とした設計は今後も意識していただきたい。 ・事後評価シートを公表される際には、制度に関する補足説明を付して、公表されたい。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	妥当である。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・事務的に評価作業をしているだけでは、まちは良くならない。 ・人口は確実に減少しており、観光業も波がある。湯浅だけでなく日本全国、海外も同様である。目的は子供たちの数を数えることではなく、元気な子供たちの姿に出会ったり、若い世代が自由に伸び伸びと活動できる瞬間があるような環境を作ることである。それらを達成するための新しい方策も検討していくべきである。 ・今後は、直接的な影響がないところへの波及効果も考慮した計画を立てられたい。 ・湯浅町の特性や文化を活かせるような取組を検討しても良いのではないか。
	フォローアップ	整備した施設が今後地域に根付かせるためには、どうしたら良いかを検討する必要がある。
	その他	若い世代の導入や、世代交代が必要である時期がきている。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	妥当である。
その他	整備箇所が津波の浸水区域でもあるので、復興まちづくりに対するイメージももっておく必要があるのではないか。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第7回変更)

ちゅうしんしがいち くまのこどうえんせん
中心市街地及び熊野古道沿線地区

わかやまけん ゆあさちょう
和歌山県 湯浅町

令和3年11月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	和歌山県	市町村名	湯浅町	地区名	中心市街地及び熊野古道沿線地区	面積	80.8	ha
計画期間	平成	29	年度	～	令和	3	年度	
				交付期間	平成	29	年度	～
					令和	3	年度	

<p>目標</p> <p>「湯浅」の歴史的資源を活かし、都市機能と生活環境向上による魅力的で快適なまちづくり</p> <p>目標1 歴史的・観光資源を活かした魅力ある町並みの形成</p> <p>目標2 充実した都市機能を備えた魅力ある中心市街地の賑わいの再生</p> <p>目標3 安心安全で快適な生活環境の創造による快適なまちの形成</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針） ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。</p> <p>本町は、紀伊半島北西部に位置し、面積は2,080ha、自然環境に恵まれた歴史と文化が息づくまちである。主な産業としては、商業とサービス業であるが、温暖な気候から沿岸漁業や柑橘類の栽培も盛んであり、湯浅湾で水揚げされるアジ、サバなどの新鮮な魚介類と「有田みかん」などのブランドが全国的にも知られている。湯浅駅を中心とした平野部において古くから市街地が形成されてきた。しかし、湯浅駅周辺の市街地が、南海トラフ巨大地震による津波浸水想定区域であることから、町役場の高台移転を含め、郊外への施設立地及び人口流出が続いている現状である。</p> <p>都市全体の再編の方針としては、これまで市街地が形成されてきた湯浅駅周辺を中心拠点区域として立地適正化計画の中で都市機能誘導区域に位置づけ、都市機能の集約を図り、市街地の活性化を図るとともに、まちの拡散の防止のため、居住誘導区域を設定し、コンパクトなまちづくりを推進していく。</p> <p>具体的には、地域交流センター、観光交流センター、図書館等の複合施設及び駅周辺駐車場整備を実施することで、中心市街地の魅力の向上を図るとともに、日本遺産に認定された醤油発祥のストーリー、重要伝統的建造物群保存地区など本町の歴史資源を目的に訪れる観光客を受け入れる、まちの玄関口としての魅力を高めるための整備を行う。また、中心拠点区域は津波浸水想定区域であることから、災害時の避難所としても活用出来るよう住民や来街者の安全・安心を実現する整備としても活用される。</p> <p>公的不動産の管理については、従来から湯浅駅周辺を中心としたコンパクトなまちづくりが実施されてきたため、旧来からの集落地域に必要な施設以外は概ね中心拠点となる区域に整備されているが、公共施設等総合管理計画等に基づき有効利用や都市機能の集約を進める。</p>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>本町では、JR湯浅駅を中心とした平野部に古くから市街地が形成され、駅や町役場、商店街など業務・商業等の機能が集積した地域として発展してきた。しかし、近年では、長引く不況や国から過疎地域に指定されるほどの著しい人口減少など社会環境の急激な変化により、まちなかにおけるかつての賑わいが失われつつある。また、これらの地域は、平成13年3月策定の「湯浅町都市計画マスタープラン」において、商業環境及び防災機能の向上を図り、安全かつ快適で活力あるまちづくりを進めるため、以前から計画的な再整備が必要とされていた。</p> <p>また、湯浅駅周辺は、有田郡における中心地として政治・経済・文化の中心として発展してきたが、近年、更新の進まない市街地が業務展開の障害となることから地元商工業者の地域外への転出や、金融機関の閉店・撤退、また郊外型商業施設の増加もあり、中心市街地での小売業年間商品販売額は著しく低下し、少子高齢化による人口減少も顕著で、平成26年に国から過疎地域の指定を受けるなど中心市街地の衰退、経済活動の空洞化が深刻化し、危機的状況にある。平成13年3月策定の中心市街地活性化計画や平成27年10月策定の湯浅版合戦略などを策定し、活性化に取り組んできたが、中心市街地の衰退に歯止めがかかっていない。</p> <p>本地区には、町庁舎が位置していたが、津波浸水想定区域にあることから、平成27年に高台移転を行った。跡地を住民や本町を訪れる方々が集い、憩う観光レクリエーション施設としての整備を進め、町の玄関口である駅周辺における整備を行うことで拠点の維持を図り、民間施設の立地誘導を推進しているところである。当該事業を通じて、さらに中心拠点地域の賑わい創出を図り、湯浅駅周辺に機能を集約し、コンパクトシティの形成を進めていくものである。</p> <p>平成18年に重要伝統的建造物群保存地区の選定を受け、平成27年には、本町を訪れる観光客数が50万人を超えるなど増加してきているが、道路幅員が狭く、観光バスが、飲食店等が集まる駅周辺まで侵入することが困難なこともあり、いまだ大きな経済効果が現れていない。</p>
<p>課題</p> <p>①歴史的な魅力と特色ある観光資源が調和した活力あるまちの創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的及び観光資源を有効活用した観光振興によるにぎわい創出に向けた基盤整備が必要となっている。（歩行空間整備、駐車場整備等） ・地場産業の6次産業化や新たな特産品の開発、第1次産業における担い手等人材育成に取組む拠点整備が必要とされている。 <p>②中心市街地の都市機能の衰退</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の賑わい低下への対策が求められている。 ・湯浅駅周辺に市街地を形成し、行政、商業機能が集積してきたが、郊外への商業施設出店や人口流出が続いており、都市の拠点地域を明確にし、民間活動を誘導する必要がある。 ・図書館も適正規模の65%程の規模のため閲覧等に支障 賑わい創出のための核施設整備が必要となっている。 <p>③人口減少と少子高齢化の急速な進展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出生数の減少に加え、進学・就職に伴う若者の流出により過去10年間で2,537人の人口が減少、平成52年には7,382人(H27国勢調査速報値12,205人)にまで減少する見込み。 ・高齢化が急速に進展し、平成52年には65才以上の人口割合が45.1%(H27:32%)に達する見込み。地場産業である農業漁業の活力低下が懸念される。人口減少に真正面から立ち向かうため、子育て世代にもすみよいまちづくりを行う拠点の整備が必要とされている。 <p>④地震・津波・洪水などの自然災害の脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフの巨大地震では2,200人の死者が想定されているため、被害軽減のための市街地整備と拠点施設整備の必要がある。 ・平成23年の台風12号による被害をはじめ、出水期、台風襲来時には浸水・冠水被害のおそれがあり、被害軽減を図る必要がある。

将来ビジョン（中長期）

- ・第3次湯浅町長期総合計画後期基本計画(平成28年3月)において、農林水産商工業と観光を関連させての経済活動の活性化、商店街の活性化等により賑わいの創出が求められている。
- ・湯浅町都市計画マスタープラン(平成30年3月)において、本地区は公共施設、生活関連施設が集積されており、都市機能の再構築を行うと共に、防災機能の向上や観光を含めた賑わい創出等新たな都市機能の付加により町の中核的な都市機能の充実を図る地域と位置づけられている。
- ・歴史的風致維持向上計画(平成28年3月認定)において、歴史的建造物の保存活用や道路等歴史的景観の保全のほか町の玄関口である駅周辺等整備による観光客受入機能強化といった整備方針が示されている。
- ・湯浅町立地適正化計画(平成30年3月)において、湯浅駅前周辺を中心に湯浅町のコンパクト化を実施していく方針が示されている。

都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方
 JR湯浅駅を中心とした平野部に町庁舎などの行政機能、商店街など業務や商業等の機能が集積し、まちづくりが実施されてきた歴史をもつ。近年、これらの市街地が南海トラフ巨大地震等による津波浸水想定区域に指定されたこと等により、役場の高台移転や住宅地の郊外立地が進んでいる。
 しかし、JR湯浅駅は町の玄関口でもあることから、図書館、地域交流センター、観光交流センター及び防災機能を備えた複合施設を整備し、都市機能の集約・強化を図ることで、町民や観光客による人の流れを誘導しながら、災害による安全・安心なまちづくりを推進することで中心市街地の活性化を行う。
 郊外部においては、旧来からの集落が点在しており、地域の特徴を活かした産業活動が行われている。これらの地域においては地域コミュニティを維持を図りながら、日常生活におけるサービス機能が低下しないよう、公共施設等の集約・統合を進める。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方
 町の玄関口であるJR湯浅駅に隣接する位置に町立図書館を整備する。町立図書館には地域交流センター、観光交流センター、地域防災施設等の機能を併せた複合施設として整備を行うことで、町民だけでなく、本町を訪れる観光客等、多くの人々が活用可能な環境整備を行うことで、JR湯浅駅の利用客の増加や本町を訪れる観光客数の増加が見込まれる。また、町民にとっても中心市街地に交流の場が整備されることにより、地域コミュニティの維持や賑わいの創出につながる。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
JR湯浅駅乗降客数	人／日	JR湯浅駅の1日乗降客数(人)	都市機能や業務機能の強化を図ることにより、主に町外からの中心市街地への来町者数増加を図る	2,324	平成27年度	2,600	令和3年度
主要集客施設利用者数	人／年	主要施設(町立図書館等)の年間利用者数(人)	地域交流拠点の整備により、地域の賑わいと都市機能の維持を図る	26,363	平成27年度	50,000	令和3年度
観光客数	人／年	湯浅町の観光客数(人)	歴史的及び観光的資源を活かす整備等により、観光客数の増加を図る	508,049	平成27年度	545,000	令和3年度
子育て世代(20代～40代)人口	人	子育て世代(20代～40代)の人口	子育て支援、防災能力等向上等に必要な整備に総合的に取り組むことにより子育て世代の人口増加を図る	3,989	平成27年度	4,500	令和3年度

整備方針等

様式(1)-③

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【歴史的・観光資源を活かした魅力ある町並みの形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・醤油が香る「重要伝統的建造物群保存地区」や古くからの参詣道である「熊野古道」といった歴史的・観光資源を活かしたまちづくりを推進するために、景観に配慮した整備等行う。 	<p>【基幹事業・高次都市施設】観光交流センター整備事業 【関連事業】電柱電線類整理事業、熊野古道沿線整備事業、重伝建地区防災施設整備事業、街路灯整備事業、伝建地区周辺道路美装化事業</p>
<p>【充実した都市機能を備えた魅力ある中心市街地の賑わいの再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点施設利用者や観光客の受入に対応した道路、駅前広場や駅前駐車場を整備する。 ・図書館、地域交流センター、観光交流センターや集客力を高める施設の整備を行い、中心市街地への来街者を増やすことにより賑わいを創出し、中心市街地の再生・活性化を図る。 ・年間50万人を超える観光客数を伸ばし、観光振興による地域活性化に資するための観光駐車場を整備する。 	<p>【基幹事業・公園】湯浅駅前公園(仮)整備事業 【基幹事業・誘導施設】町立図書館整備事業 【基幹事業・高次都市施設】地域交流センター整備事業、観光交流センター整備事業 【基幹事業・地域生活基盤施設】駅前広場整備事業、複合施設駐車場整備事業、駅前駐車場整備事業 自転車駐車場整備事業 【関連事業】観光駐車場整備事業、JR湯浅駅バリアフリー化事業</p>
<p>【子育て世代や高齢者も住みやすい、安心安全で快適な生活環境の創造による快適なまちの形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地や居住誘導地域の防災能力の向上を図り、安全安心のまちづくりを推進するため、地域防災施設等を整備する。 ・人口減少、少子高齢化等に対して真正面から立ち向かうため、子育て世代や高齢者にもすみよいまちづくりを行う拠点を整備する。 	<p>【基幹事業・公園】湯浅駅前公園(仮)整備事業 【基幹事業・高次都市施設】地域交流センター整備事業 【関連事業】地域防災施設整備事業</p>
<p>その他</p>	
<p>○事業終了後の継続的な中心市街地活性化の展開 当地区では、歴史的環境との調和を図り、効率的な都市づくりのため、土地利用の誘導及び土地の有効活用により都市機能の拡散を防止し、コンパクトシティ形成に向けて取り組む。また、中心市街地活性化のため、まちづくり団体や商工会、観光協会、民間団体、商業事業者及び地域住民等と協働した取組みを進める。</p> <p>○高次都市施設(地域交流センター、観光交流センター)、地域防災施設、町立図書館、付属棟、それぞれの管理条例については制定に向けて調整中。</p> <p>【官民連携事業】</p>	

中心市街地及び熊野古道沿線地区(和歌山県湯浅町)	面積	80.8 ha	区域	湯浅町大字湯浅の一部、大字別所の一部
--------------------------	----	---------	----	--------------------

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。

